

# GW2050 PROJECTS ～人材育成について～

---

地域人材育成構想会議

GW2050 PROJECTS 推進協議会

2026年3月17日

- GW2050 PROJECTSは、成長著しいアジアに近接する沖縄の立地優位性等を背景に、今後広大な基地が返還されるポテンシャルを「沖縄の進化」に変えるチャンスと捉え、那覇空港から普天間飛行場に至るエリアを価値創造重要拠点と位置づけ、国際競争力を高め日本を牽引する沖縄の経済発展を目指す「地域成長モデル」
- 3つの基地返還予定地を、世界に選ばれる沖縄を目指した中心的なフィールドとして、沖縄県全体での役割・機能分担を見据えた機能的なまちづくりに繋げていく

価値創造重要拠点の全体像(イメージ)



個別の跡地利用計画ではなく  
一体的な成長戦略を描くことで、  
魅力的な将来像を描き、早期の基地返還を実現

## 推進体制

### GW2050 PROJECTS 推進協議会

(経済団体)

沖縄県経済団体会議  
(共同代表)

(民間企業)

沖縄未来創造協議会  
(共同代表)

(関係自治体)

那覇市

(関係自治体)

浦添市

(関係自治体)

宜野湾市

(関係団体)

沖縄懇話会

(関係団体)

那覇空港拡張整備  
促進連盟

## 検討テーマ



# 目次

1. GW2050 PROJECTSの全体構図
2. 人材育成について

沖縄の課題	低所得水準	こどもの貧困	交通渋滞	離島の過疎化
	全国と比較して7割にとどまる所得水準	教育機会の喪失と貧困の連鎖	年間1,500億円相当の経済機会損失	慢性的な人口減少

2050年の世界の産業潮流と沖縄らしさを踏まえた成長産業を創出し、  
沖縄の課題解決を図りながら地域の成長モデルを構築

## 成長産業の創出

既存産業	 <b>【高付加価値化・市場拡大】</b> 観光需要増を起点とした既存産業の拡大	沖縄独自の商材の高付加価値化と域外展開
		クルーズ船への県内生産品積み込み
新興産業	 <b>【ブルーエコノミー】</b> 自然・海洋資源を活かした情報集積拠点	食を支える陸上養殖
		海洋バイオものづくり
		マリナー/船舶MRO
		海洋研究・資源活用
	 <b>【先端医療】</b> 高齢社会・離島を支え、住まう価値の向上	医療データを活用した創薬・デジタル医療拠点
		遠隔医療の先行実装フィールド
	 <b>【航空・宇宙】</b> 日本をリードするフロンティア領域の開拓	リモートセンシングプラットフォーム (低軌道衛星、HAPS)
		航空関連産業クラスター形成

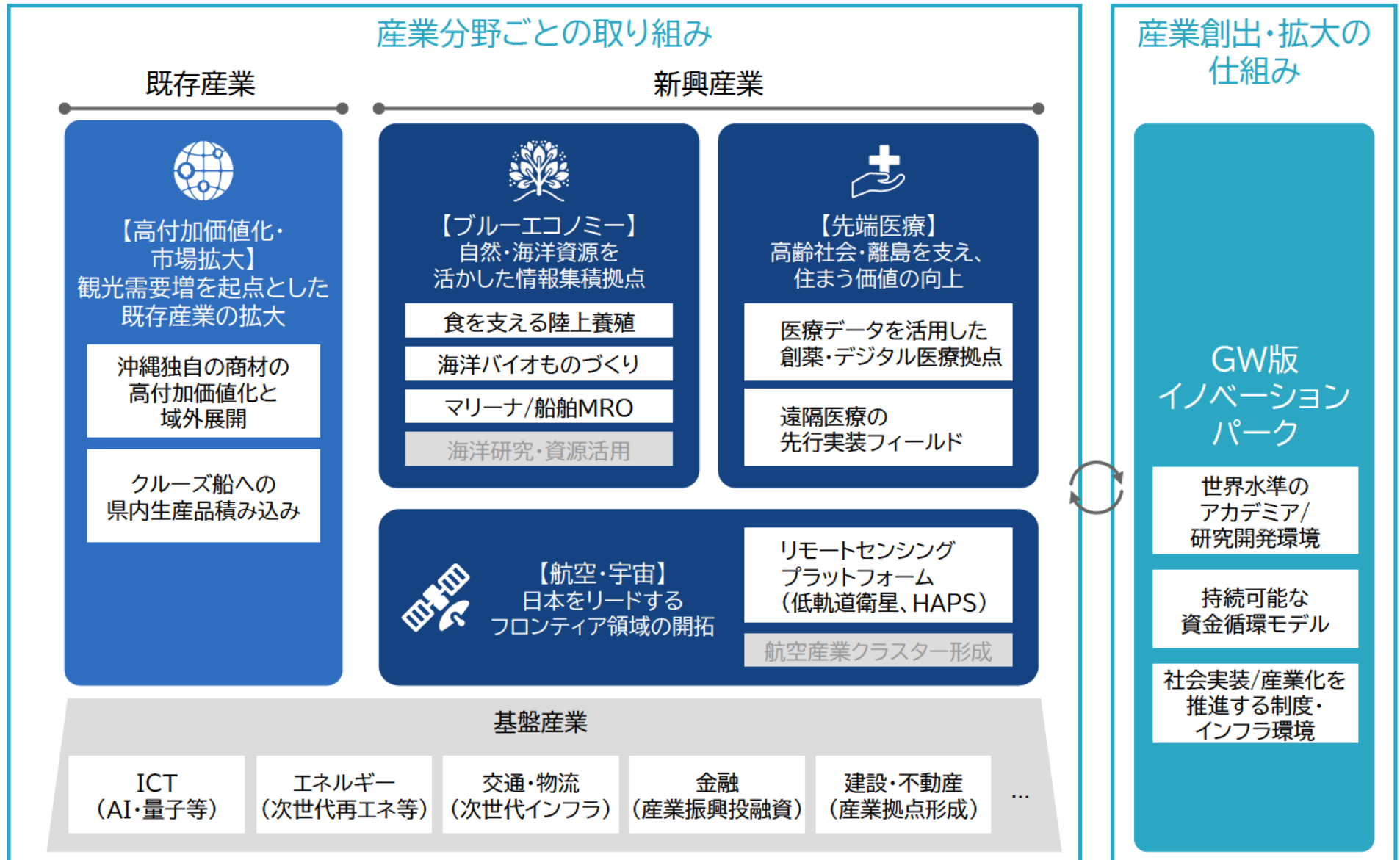
## 成長目標



- GW2050 PROJECTSでは、**4つの柱(4 Pillar Initiatives)**と、それらの柱を支える**3つの基盤分野(3 Bases)**における施策推進を通じて、世界と日本のゲートウェイとして日本を牽引し、真に自立した沖縄経済の実現を目指していく



➤ 成長産業創出に向けて、産業分野、産業横断の2つの観点から仕組みづくりに取り組む



➤ 成長産業創出に必要な人材の育成・獲得に向け、5つの柱からなる人材活用モデル構築を目指す

## 沖縄における人材面の課題

社会人	経営・管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県は起業率は全国トップの一方、廃業率は全国6位<sup>1</sup></li> <li>環境変化に対応するための経営マネジメント能力が不足</li> <li>特に観光業では、経営・管理層は県外・海外が占める構図</li> </ul>
	専門・技術職	<ul style="list-style-type: none"> <li>OIST・琉大・沖縄高専などが専門人材の集積・育成機能を担っている</li> <li>新たな成長産業創出に向け産学連携を深める余地</li> </ul>
	サービス・事務等の現場職	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス業を中心とした労働集約的な産業構造</li> <li>一方、人口は2023年にピークを迎え、将来的に人手不足が深刻化する見通し</li> </ul>
学生	初等～高等	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄での高校・大学進学率は全国最下位<sup>2</sup></li> <li>10-20代は毎年3,000名弱の転出超過<sup>3</sup>が続いており、県外への若者流出が多い</li> </ul>

## 産業展開に伴う変化

- 成長産業創出には新たな事業モデル構築や組織変革を導くリーダーシップ、ビジネススキルが必要  
特に観光面では、観光経営能力を磨く必要
- ブルーエコノミー・医療・航空宇宙の新興産業に必要な専門性の獲得が必要
- AI・ロボット等の新技術による代替が進み、人材はより高付加価値な業務・役割にシフト
- 将来の更なる環境変化に対応するため、次世代の人材が世界と渡り合えるレベルになることが重要

## 新たな人材活用モデル

- 1 県内ビジネスパーソンの経営マネジメント能力向上
- 2 観光人材の高付加価値化
- 3 新興産業の専門人材育成
- 4 次世代を担う人材のグローバル教育
- 5 県外・海外からの人材誘致・循環

▶ 次年度以降、成長戦略の早期実行に向けて以下の打ち出し策を推進

戦略方針

打ち出し策

4つの柱 (4 Pillar Initiatives)	基地跡地のまちづくりに 向けた仕組みづくり	まちづくり計画反映		1	国・県・自治体との計画反映に向けた協議体制の構築
		早期まちびらきに向けた制度		2	制度に関する協議体制の構築
	成長産業創出の仕組み づくり	既存産業	高付加価値化	3	沖縄の地域資源を高付加価値化し、域外マーケットを広げていく
			市場拡大	4	商社機能を設立
		ブルー エコノミー	陸上養殖	5	産学官連携による一貫したバリューチェーンの構築
			海洋バイオ	6	海洋バイオものづくりプラットフォーム
			マリーナ/MRO	7	インバウンド向け高付加価値体験
		先端医療	創薬(CRO機能誘致)	8	インキュベーション機能構築、資金循環モデル、医療データ活用環境整備
			遠隔医療	9	遠隔医療モデル構築
		航空宇宙	リモートセンシング	10	海洋×リモートセンシングプラットフォーム
			HAPS	11	—
		イノベー ション パーク	アカデミア連携	12	世界水準のアカデミアや研究機関との連携基盤づくり
	資金循環モデル		13	資金量・目利き・バリューアップ機能を備えるFund of funds	
	空港・港湾機能強化	制度・インフラ環境		14	イノベーションパークを実現する制度の検討
		那覇空港機能強化		15	新ターミナルの整備
		港湾・物流 機能強化	港湾機能	16	那覇港機能の分散(中城湾港の利活用)
	物流機能		17	物流倉庫の拡充、高度化・集約化・最適化	
	基幹交通の整備				18
3つの基盤分野 (3 Bases)	人材育成	経営マネジメント能力向上		19	国際MBAプログラム、ビジネススキル育成プログラム
		観光経営マネジメント能力向上		20	観光経営人材育成プログラム
		成長産業を牽引する専門人材育成		21	成長産業と連動した専門教育、AI・データ技術者育成
		グローバル教育体系構築		22	デジタルを活用したグローバルカリキュラムの構築
	カーボンニュートラル	外国人活躍環境整備		23	ワンストップ受入体制整備、コミュニティ形成支援、現地での人材確保
		次世代再エネ技術		24	次世代再生可能エネルギー技術構築
		水素・アンモニア等利用環境		25	クリーン燃料の拠点整備・SCの構築に向けた調査、利活用技術の確立
		地域資源活用		26	地域資源(ヨウ素等)活用モデル事業化
	次世代プラットフォーム	官民連携プラットフォーム		27	官民連携プラットフォーム
		次世代通信		28	次世代通信(6G)基盤実装調査

➤ 沖縄のGW成長戦略は、新たな日本の成長戦略と共通の理念・方向性を持つ位置づけ

## 新たな日本成長戦略

## 沖縄のGW成長戦略

### 理念



責任ある積極財政により官民連携の成長投資・需要の拡大を重視

那覇・浦添・宜野湾に位置する3つの基地返還予定地と那覇空港を「価値創造重要拠点」と位置づけ、民間を中心に3市と連携した、沖縄らしい経済発展モデルを構築

### 投資対象の戦略分野



世界共通の課題解決への貢献、及び日本経済の新たな成長のエンジンという観点から、17の戦略分野を定義

世界の潮流と沖縄の優位性を基に、観光/海洋/先端医療/航空・宇宙等の成長産業を定義

### 分野横断的課題



新技術立国・競争力強化、人材育成、スタートアップ、金融、労働市場改革等の分野横断的な課題に取り組む

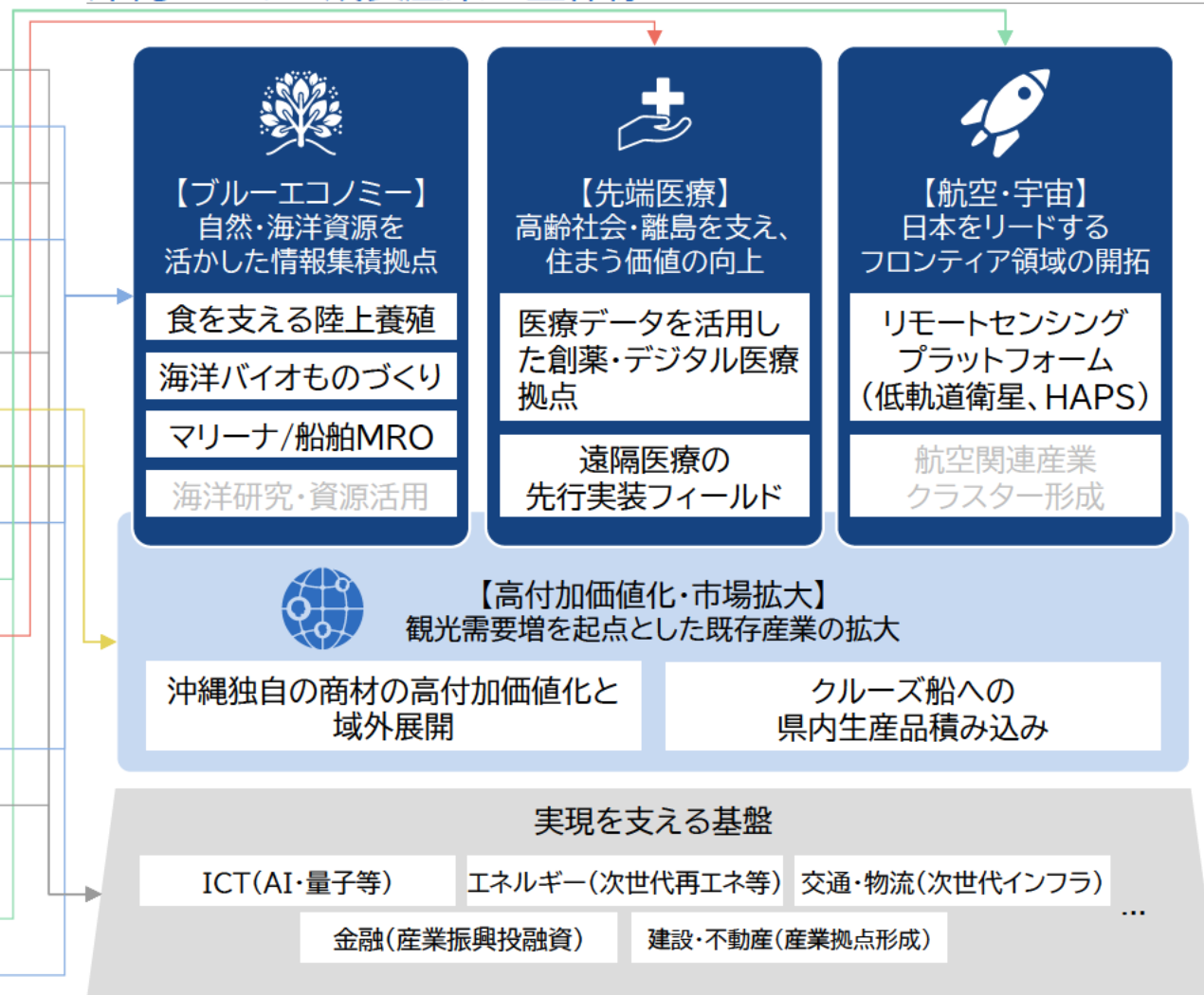
産学官連携でのイノベーションパーク、全県的な労働生産性向上、高度人材育成等の仕組みづくりに取り組む

- 沖縄が世界と勝負できる領域として、ブルーエコノミー、先端医療、航空・宇宙、観光・高付加価値化を中心とした成長産業の創出を目指しており、日本成長戦略の成功モデルを目指す

## 日本成長戦略の戦略分野

- ① AI・半導体
- ② 造船
- ③ 量子
- ④ 合成生物学・バイオ
- ⑤ 航空・宇宙
- ⑥ デジタル・サイバーセキュリティ
- ⑦ コンテンツ
- ⑧ フードテック
- ⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX
- ⑩ 防災・国土強靱化
- ⑪ 創薬・先端医療
- ⑫ フュージョンエネルギー
- ⑬ マテリアル(重要鉱物・部素材)
- ⑭ 港湾ロジスティクス
- ⑮ 防衛産業
- ⑯ 情報通信
- ⑰ 海洋

## 沖縄における成長産業の全体像



# 目次

1. GW2050 PROJECTSの全体構図
2. 人材育成について

- 沖縄の優位性を活かして沖縄がアジアを代表する人材ハブとして成長し、2050年の成長目標を実現するために、ひとづくりは重要な地方創生の取り組みである。
- 沖縄の課題を克服し、経済成長につなげるためには人材を足元から育てていくことが求められる

## 沖縄の現状と課題

- 所得水準は全国の約7割、労働生産性が低い
  - 若者流出、教育格差、貧困の連鎖、人口減少が進行
  - 観光依存で産業の高度化が進んでいない
  - 生活環境などの課題が定着を阻害
  - 島嶼性による市場規模・交通・環境の制約
- さらなる経済成長を阻む構造的な課題

## 沖縄の優位性

- アジア20億人市場の中心に位置する地理的特性があり、世界からアクセスしやすい国際性
  - 温暖で自然豊かな滞在・定着に適した環境
  - 異文化を受容する歴史・精神による多様性の受容力
- 「人材育成・交流のハブ」として成長できるポテンシャルがある

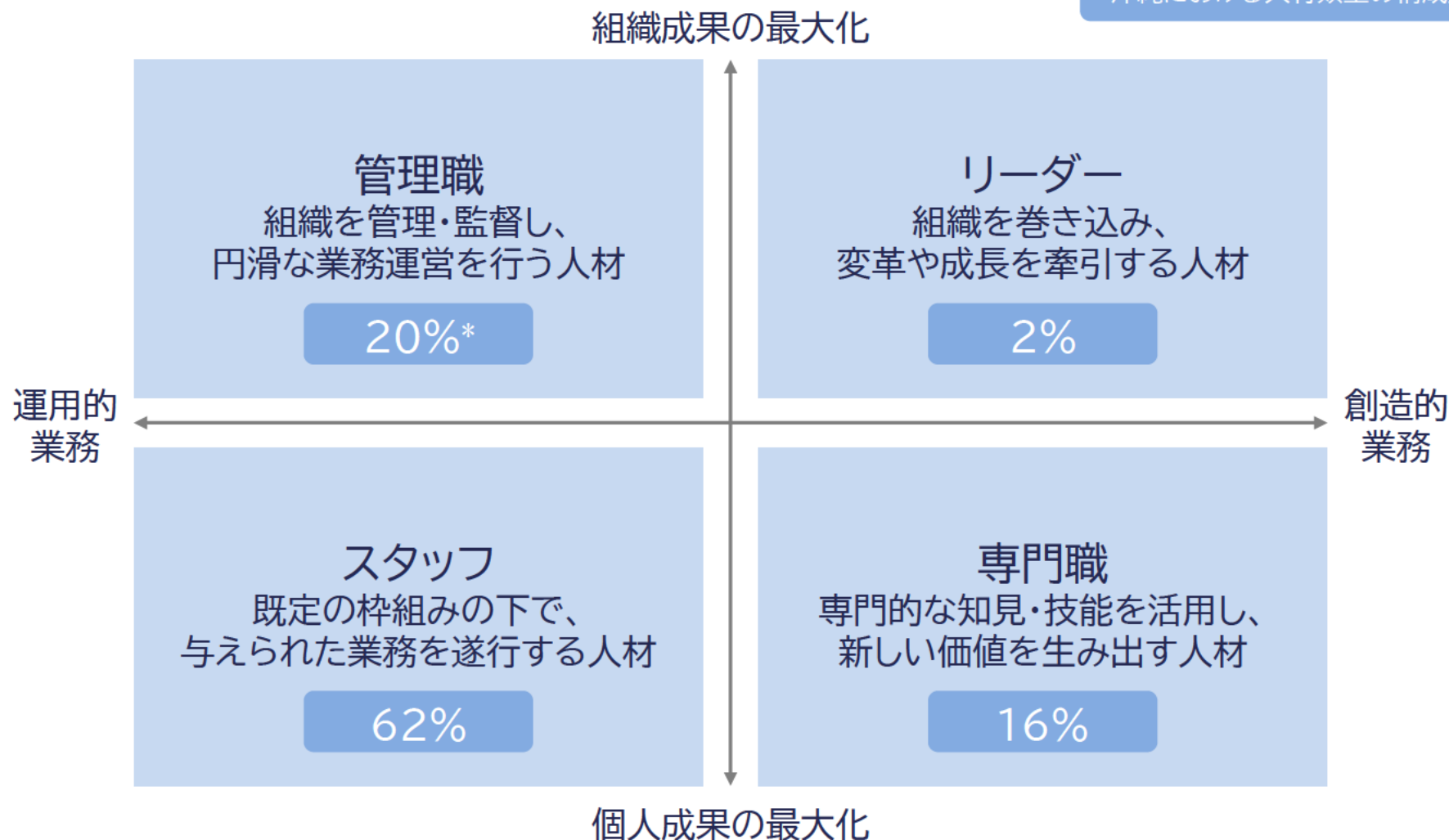
## ひとづくりの重要性

- 教育は労働生産性の向上に直結し、所得向上の鍵となる
- 内需中心の沖縄では、人口増が成長につながる
- 教育環境が魅力のまちには人が集まる
- 成長産業(海洋・先端医療・航空宇宙など)には高度専門人材が必要

→ 2050年の成長目標を達成するには、沖縄を支えるひとづくり(人材育成)が重要である

- 人材類型は、成果目標の考え方や業務の性質に基づいて、リーダー・専門職・管理職・スタッフの4つに大別される

沖縄における人材類型の構成比

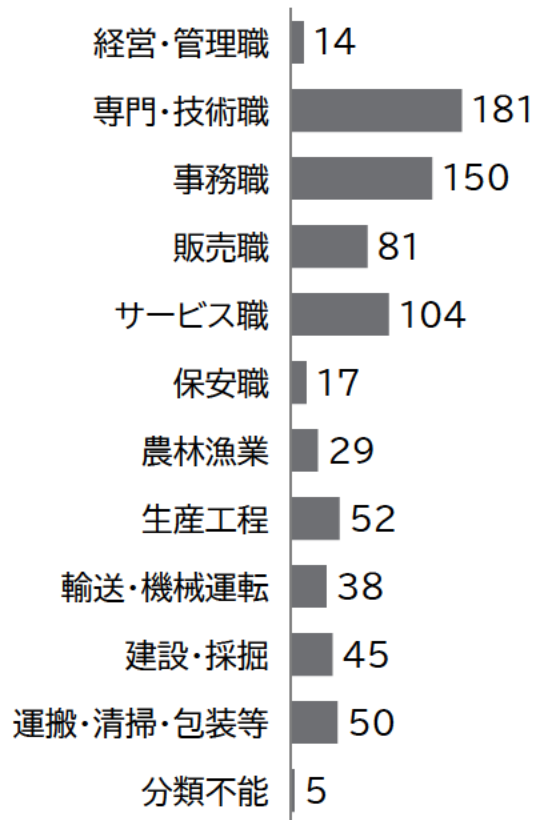


注記: \* 管理職は全体の20%と仮定  
Source: 沖縄県企画部「労働力調査」(R4年)

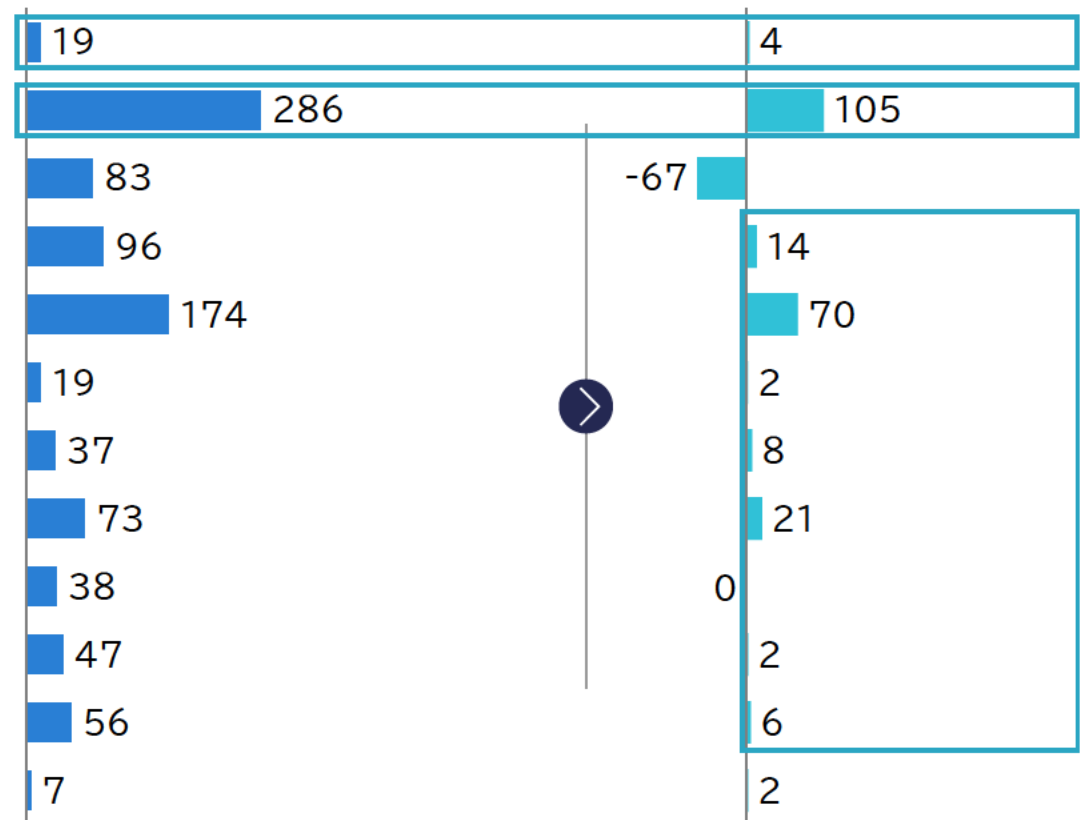
# 2050年の産業展開に伴う人材類型・需要の変化

- 成長産業の展開に加えて新技術導入等による生産性向上も考慮すると、将来的には成長産業の牽引役となる経営・管理職や専門・技術職の必要性が高まっていく見立て
- またサービス職を中心とした現業人材も成長産業を支える人材として需要が増し、高付加価値化への対応が求められていくと考えられる

2024年の  
役割別就業者数 (万人)



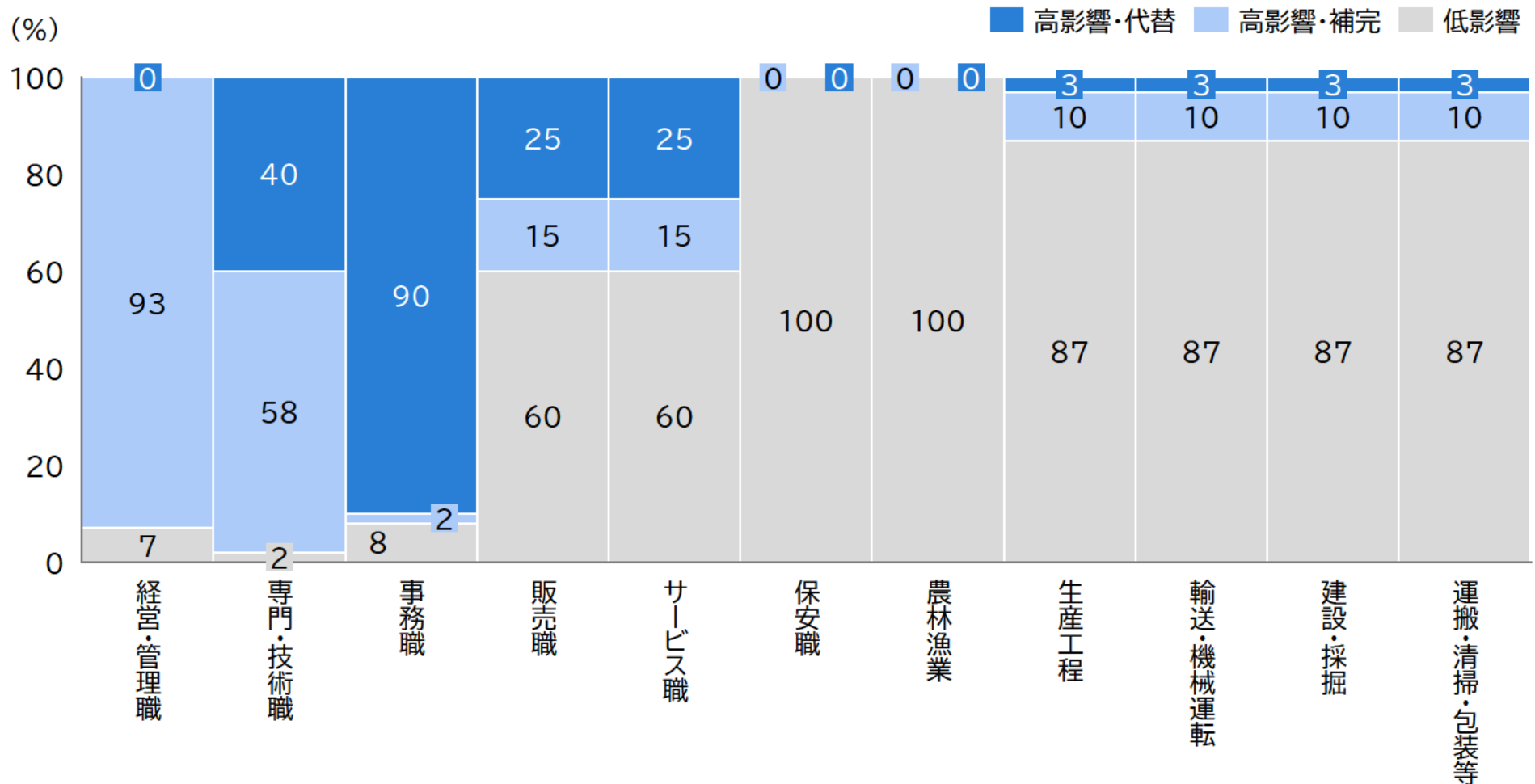
2050年の  
役割别人材需要 (万人)



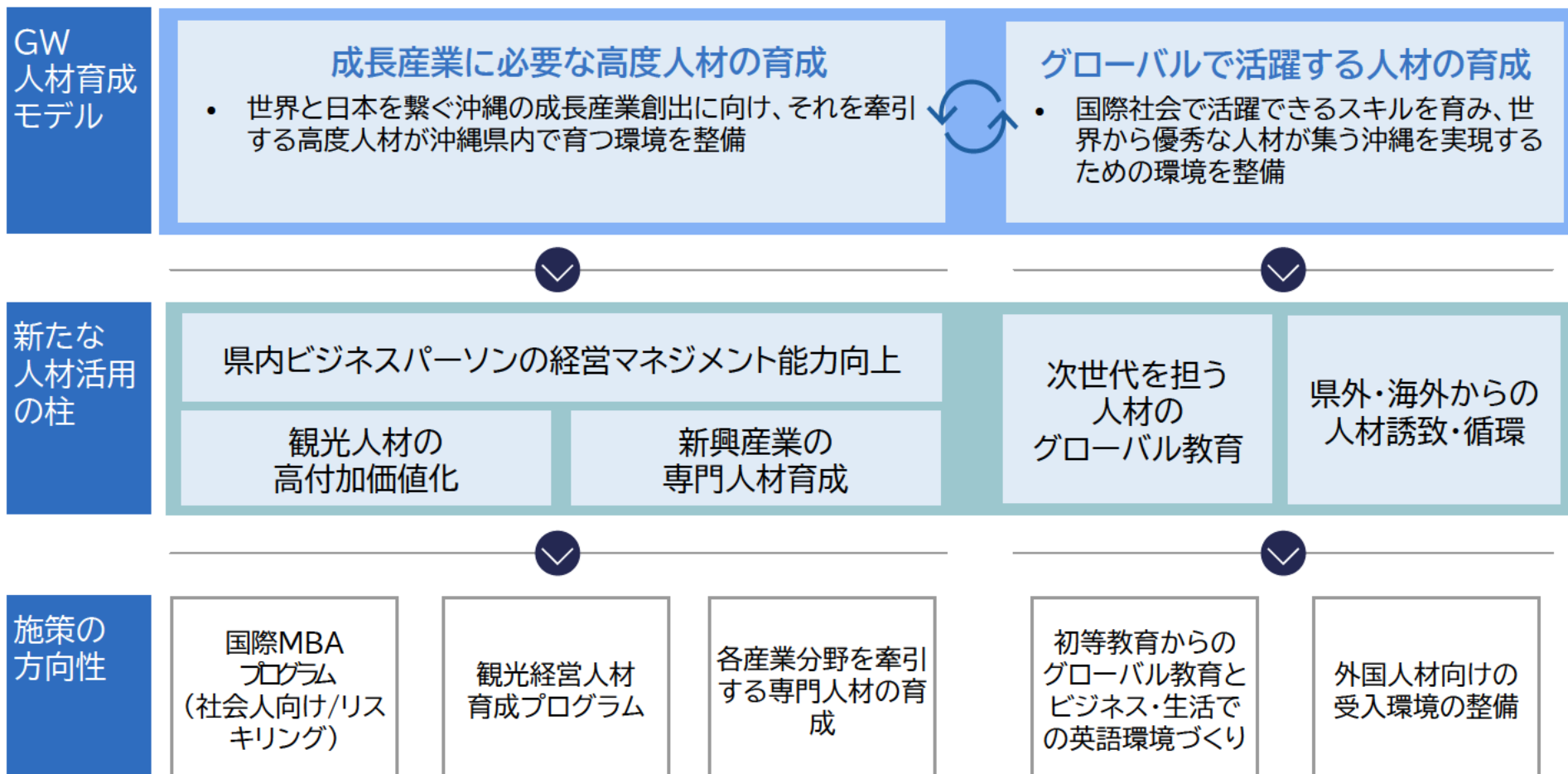
出所:沖縄県「労働力調査」、総務省統計局「経済センサス」等を基に分析

- AI・ロボット等の影響は役割ごとに異なり、経営・管理職や専門・技術職のような役割ではAI・ロボットが補完関係となり多くの便益を得る可能性がある一方、事務職ではAI・ロボットに代替されるリスク

## AI・ロボット等による人材への影響



- GW人材育成モデルは、高度人材の育成とグローバル人材の育成を両輪で進める
- 経営マネジメント能力の向上は観光関連産業や新興産業の高度化に波及する。また、グローバル人材の育成は次世代を担う人材の教育から優秀な人材の誘致まで幅広い効果をもたらす



## ▶ 経済界が主体的にアカデミアや行政と連携し、人材育成に取り組む

### 国際MBAプログラム

- 社会人が経営・戦略・国際ビジネスを体系的に学べる環境を整備(MBAの誘致)
- 長期的な視点で地域のビジネスリーダーを育成

### ビジネススキル育成プログラム

- 現場でのAI活用やDXなど、生産性向上に直結するビジネススキルを短期集中で習得できるプログラムを構築する
- 企業の即戦力人材を育成

### 成長産業と連動した専門教育

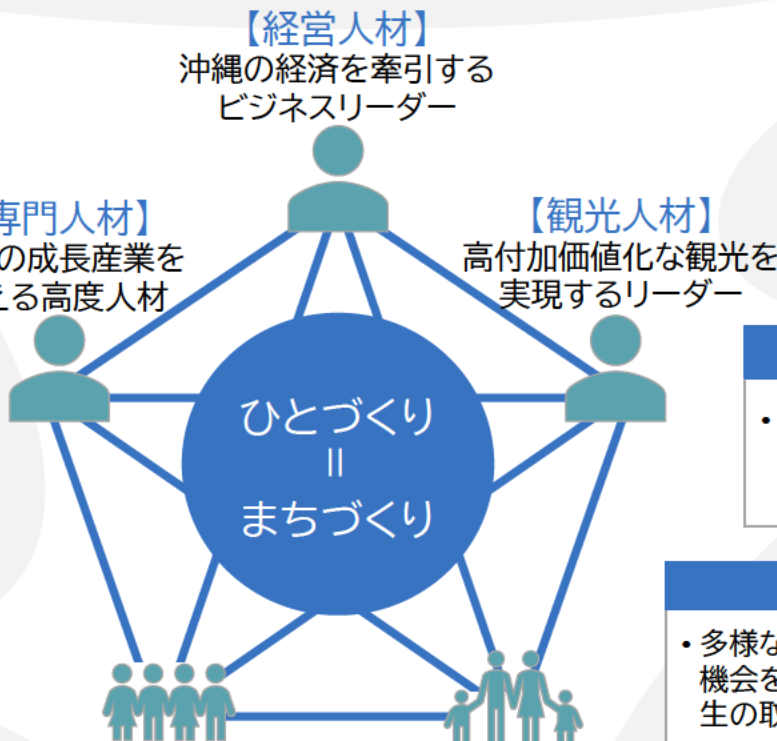
- 海洋・先端医療・航空宇宙など、産業ニーズと連動した成長産業に必要な専門人材を育成できる環境を構築

### AI・データ技術者育成

- 産業スコープと連動したAI開発・データ分析などの専門教育を受けられる環境を整備し、技術者のAI開発人材を育成

### グローバル教育体系構築

- 英語・国際的素養・沖縄アイデンティティを初等教育から体系的に育成し、デジタル活用や国際交流を取り入れた教育が実現できる仕組みをつくる



### 観光経営人材育成プログラム

- 観光の高付加価値化を担う中核人材に、経営・商品開発・データ活用・地域連携などを実践的に学ぶ機会を提供

### ワンストップ受入体制整備

- 外国人材が安心して働き暮らせる受入インフラを整備する(医療・通信・口座・免許などの手続きを一元化する支援窓口など)

### コミュニティ形成支援

- 多様な人材が地域とつながるための交流機会を提供し、定住につながる多文化共生の取り組みを進める

### 現地での人材確保

- ミスマッチを防ぎ必要な人材を計画的に確保するために、生活・文化・労働法などを事前教育を行う

- 専門人材の育成に向けて、今年度の産業モデル検討を踏まえて詳細化
- 多様な人材が必要となる中で、県内の人材育成機能が未発展の領域を中心に取り組みを行う

## 専門人材育成の方向性

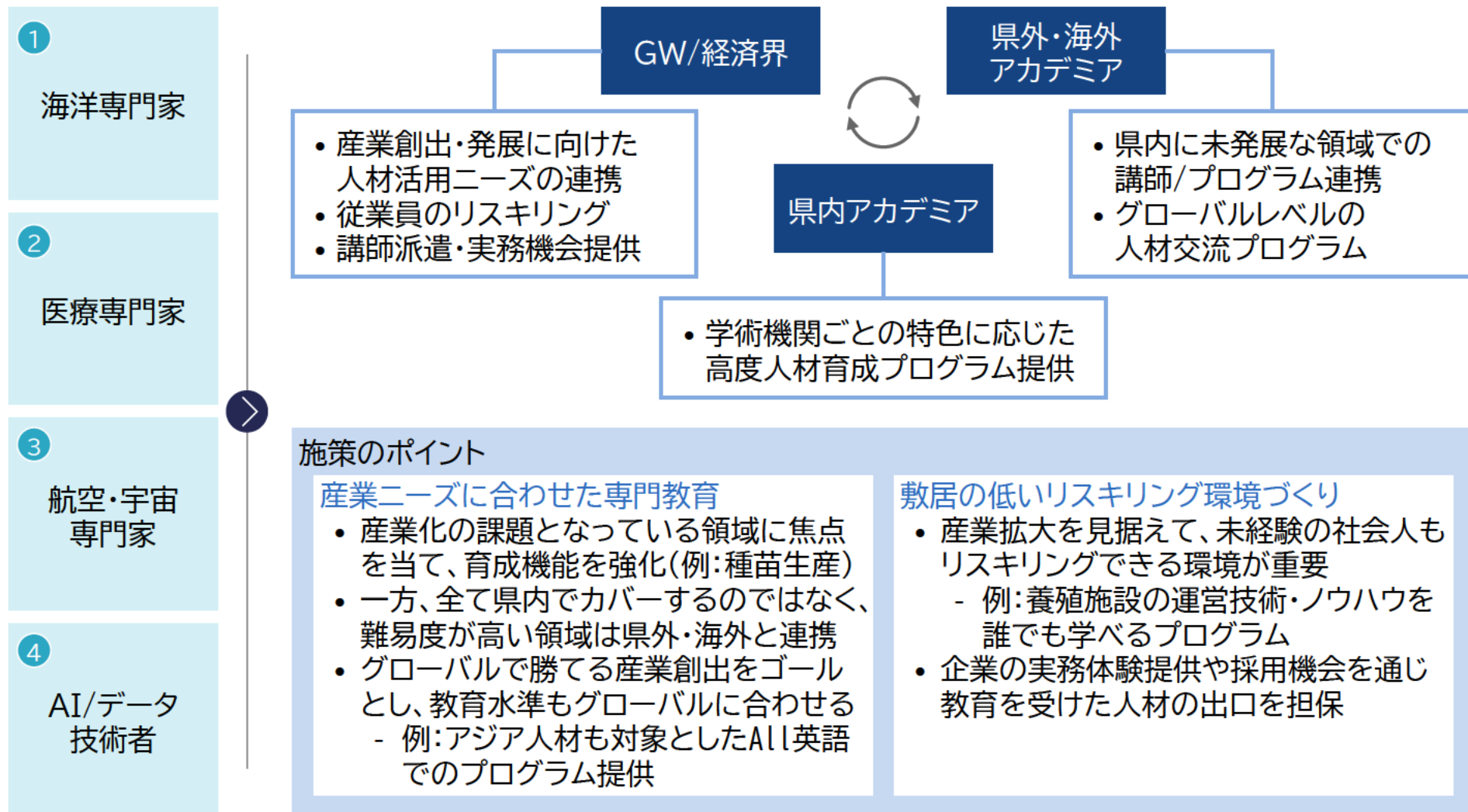
- ① 海洋専門家、② 医療専門家、③ 航空・宇宙専門家、④ AI/データ技術者の育成に取り組む

		基礎・応用研究	開発・運用	AI/データ活用
ブルーエコノミー	陸上養殖	ブルーエコノミー研究者 ・水産物の生態・生育 ・微細藻類等のバイオ資源 ・養殖・培養などのシステム	養殖専門家 ① ・種苗生産、成魚までの生育 ・養殖設備の保守・管理	AI/データ技術者 ④ ブルーエコノミー専門 ・ライブラリ構築に向けたデータクレンジング・統合 ・養殖環境最適化、最適成分探索等のためのデータ解析
	海洋バイオ		バイオリブラリ専門家 ・培養・試験・データ管理・品質評価	
	マリーナ/MRO	(該当なし)	マリーナ運営・管理者 ・(観光経営人材の一環) 船舶MRO専門家	(該当なし)
先端医療	創薬	先端医療研究者 ・ゲノム研究 ・創薬研究 ・SaMD/医療機器研究	デジタル医療専門家 ② ・ソフトウェア・機器の開発	先端医療専門 ・医療データの仮名化処理・クレンジング・統合 ・疾患原因の標的分子探索、効果予測等のデータ解析
	遠隔医療		創薬専門家 ・医薬品開発・臨床 臨床専門家 ・注力疾患治療の臨床試験	
航空・宇宙	リモートセンシング	航空・宇宙研究者 ・リモートセンシングのデータ観測手法研究 ・海洋・環境・防災等におけるデータ解析手法研究	リモートセンシング専門家 ③ ・海洋・環境・防災等の用途に応じたソリューション開発 航空・宇宙MRO専門家 ・航空、衛星、HAPS等	リモートセンシング専門 ・膨大な衛星・HAPSデータのクレンジング・統合 ・海洋・環境・防災等の用途に応じたデータ解析

OISTを中心にグローバルレベルの研究者が集積しており、今後も継続強化

県内の人材育成機能が未発展であり、取り組みが必要な領域

- GW/経済界と県内アカデミアの連携体制を中心として、県内での未発展領域の機能補填やグローバル人材交流を目的に県外・海外アカデミアとの連携を進める



- 新産業創出及び労働生産性向上などの地域課題解決に対して、AI・量子の活用や関連人材の育成により飛躍的な成長を目指す

### 成長実現に向けた課題

- 県内総生産11兆円の達成に向けて、医療、ブルーエコノミー、航空宇宙といった新産業の創出や、一次産業・製造業・物流など既存産業の高付加価値化を進めるためには、膨大な一次情報を統合し、より高度な分析・最適化・シミュレーションを行うことが不可欠
- 沖縄が抱える台風などの自然災害リスク、島嶼地域特有のエネルギーコスト構造、再生可能エネルギーの導入拡大に伴う需給調整の難しさといった地域固有の課題についても、産業拡大と並行した対応が求められる
- 沖縄振興の観点では、労働生産性・所得水準等の課題解決策として、産業拡大と高度専門人材育成の両輪での取り組みが必須

### 膨大な情報量と、創薬など複雑化する課題に対し 「AI × 量子コンピュータ」のハイブリッド活用の戦略的推進

#### 産業化

GW2050が掲げる成長戦略と政府の「新たな日本成長戦略」を掛け合わせ、AI×量子、OIST(自然科学)×産総研(産業技術)、国×沖縄が連携し、グローバルで戦える沖縄と日本の成長を目指す

#### 人材育成

AI×量子分野の最先端研究者などによる高度人材・専門人材の育成・定着を進め、沖縄でのエコシステムを構築するとともに、所得水準向上や環境変化に強い持続的な地域発展を見込む

産業面と人材育成の両輪で、国際競争力と環境変化に強い持続的な地域発展を実現